

「弥生時代のミステリーサークル？」

遺跡を発掘調査するとドーナツ状の溝が見つかります。これは円形であったり方形であったりしますが、弥生時代から奈良・平安時代を中心に古くは縄文時代から幅広い時代に見られます（注1）。円形やC形、方形状に溝を掘ったあと、その中心部に死者を埋葬する場合はお墓であると断定できます。このタイプのお墓は弥生時代に登場し、溝から出土した土を溝の内側に盛り上げて墳丘をつくり、次第に古墳へと発展していき

ます（写真1）。しかし溝を掘っただけで、中心部に何も見当たらないものも数多くあります。お墓ではない溝だけの遺構…まるでミステリーサークルのようですが一体これは何の施設なのでしょう？

その溝の中には赤く塗られた特別な土器などが投げ込んであった例などから、何らかの祭祀（おまつり）をした跡という説が有力ですが、盛つてあった土やお墓などの構造物が開墾などで削られてしまつて溝だけになつてしまつたことも考えられるため、周溝単体ではどのような遺構であつたか分からないのが現状です。

さて、宮山遺跡においては円形周溝が4基見つかりました。溝内からの土器の出土が少なく時代判定は難しいのですが、竪穴住居などを壊していないため住居群と同じ頃の弥生時代後期（約1,800年前）に存在していたと考えられます。また、円形周溝は住居群より少し小高い広場のよ



写真1. 周溝墓から円墳への発展する様子

弥生時代から古墳時代のお墓の移り変わりの様子
周溝墓（写真右）から円墳（写真左）へと発展

うなところにあるため、宮山遺跡の集落内において重要な役割を持つていた可能性もあります。特徴的なのは重なり合っている2号と3号の円形周溝です（写真2）。2号を3号が壊して掘られていますので3号が新しいことになりましたが、これは1つの円形周溝が長期間の使用のために作られたものではないことを表しています。つまり儀式など一定の目的のために造られ、施設として不用となった段階で埋め戻された可能性もあります。

また、3号円形周溝内には柱状の板石が放り込まれています。想像で



写真2. 重なり合った円形周溝（手前が2号、奥が3号）



板石が溝の中に棄てられている様子

※宮山遺跡から出土した土器などの整理作業を旧役大原小学校で行っています。見学可能です。お気軽におこし下さい。

整理作業事務所 ☎ 34・1643

すが、この石は宮山遺跡一帯にはないため、遠くから持ち込み中央部に祭壇として積まれていたなど呪術的な意味があつたのかもしれない。稲作文化の広がりとともに倭国大乱を巻き起こした弥生時代ですが、常に「まつり」や「祈り」を中心とした社会であつたと言われています。宮山遺跡の人々の祈りとはどのようなものだったのでしょうか。

（注1）円形及びC型のものを円形周溝、方形のものを方形周溝といいます